

校友会報

108

目次

ごあいさつ

足立 剛…………… 1

誇りある

学園創造に向けて

高山 英華…………… 2

創立100周年に向けて

北郷 薫…………… 3

布施 敏夫…………… 4

遠藤 鎮雄…………… 5

鈴木 敬治郎…………… 6

創立100周年

記念事業計画について… 7

校友会支部一覧…………… 8

学園100年史…………… 10

校友会組織…………… 14

創立100周年

記念事業運営組織… 14

第7回全国大会

(千葉大会)開催の報告… 15

台湾支部総会だより… 16

賛助会費納入のお願い… 16

部会報告…………… 17

総務部・財務部・事業部

校友会だより…………… 18

第41回評議員会・第31回

総会開催のお知らせ… 19

昭和61年度事業報告書… 19

収支計算書… 20

貸借対照表

財産目録

昭和62年度事業計画案… 21

収支予算書(案)… 21

計報…………… 22

創立100周年記念

シンボルマークについて… 23

新宿校地再開発外観案

ごあいさつ



校友会
会長 足立剛一

新緑の候 会員諸兄には益々ご健勝のことと御慶び申し上げます。平素は校友会活動に多大のご協力を賜りありがとうございます。

さて、ご承知のように来る10月31日は学園創立100周年記念日を迎えることになります。すでに記念行事として、創立100周年記念事業委員会及び同募金委員会が設置され記念事業事務局のもとで活動が開始されております。校友会といたしましては、校友会募金実行委員会を組織しすでに多くの会員各位に委員をご委嘱し現在委員会開催について準備を行っております。ご案内のとおり創立100周年記念事業として計画中の新宿校地再開発事業につきましては、すでに、新宿校地再開発本部事務局が設置され、これにより新しい都心型学園構想による再開発事業が開始されることになりました。

申すまでもなく新宿校地再開発事業は、この100年を節目として、先達の志を継承し、さらに21世紀に向かって社会の求める学園創りの最良の機会であり、同時にその最大の目的は学園の使命目標を確立し、さらに教育と研究の質的充実を計り学園が将来にわたり私学として安定した経営が行われることが基本であります。又私達の先輩が100年という長い歴史のなかで築いた榮譽に應えるためにも今度の学園創立100周年記念事業は成功させなくてはなりません。

学園創立記念にあたり私達の先輩の足跡についてふりかえるならば現在の校友会の前進は明治33年12月工手学校同窓会が創立されその初代会長に当時の三好校長が就任されたのが始まりであります。

その後大正7年1月9日付で財団法人と組織変更し、さらに大正13年12月工手学校同窓会を東京工業会に名称変更するなど会の運営について幾多の変遷を経て来ております。なかでも大正12年9月の関東大震災

により校舎が全焼し、このため昭和3年に現在の新宿校地に新校舎を建設して新たに校名を工学院と改めて再出発しました。

昭和19年5月の戦災によりその校舎の一部が焼失し経営も困難をきわめたが当時の関係者のご努力により学校経営はそのまま行うことが出来ました。

戦後の学制改革によって昭和24年4月工学院大学が設置され、同時に、高等学校、専門学校と改めて現在の学園の形態となり現在に至っております。

昭和27年3月工学院大学校友会が組織され同年9月校友会報の創刊号が発行されました。これにより組織も充実し全国各地に支部も設置されました。しかし昭和42年頃より各学科及び学校単位に同窓会が組織されることになり、校友会の活動は困難となりました。その後学園側による強い要望を受け校友会と学園同窓会の合併について関係各位のご尽力により、昭和54年5月に合併が実現し前島為司氏が会長に就任されここに長年の懸案であった全卒業生の大同団結による新しい校友会が組織されました。

幸い会員各位のご理解とご協力により会の運営も増しに整い支部も全国各地に組織され、今後は充実した支部活動と円滑な支部運営を行うために努力いたします。

さらに昨年4月に役員の変更を行い新体制のもとで、なおいっそう会の充実を計るために各位のお力添えを仰がなければなりません。

ここに学園創立100周年を迎えるに当り先輩の功績を偲び輝かしい伝統を後世に伝えたいと存じます。

募金事業の活動につきましては現在の経済環境は諸般の事情により必ずしもよいとは申せませんがこの記念事業達成のため多くの会員各位の格別な幅広いご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

誇りある学園創造に向けて



学校法人工学院大学
理事長 高山英華

学校法人工学院大学は、昭和62年10月31日をもちまして創立百周年を迎える運びとなりました。

顧みますと、過ぎ去った百年の歳月は決して穏かで担々としたものではなく、むしろ激しい波浪に翻弄され、幾度かの危機に遭遇し、峻険な山坂をあえぎ、あえぎ歩を進めていくような苦闘の連続であったと申しても過言ではありません。

しかしながら、関東大震災を始めとする罹災、或は経営危機に際し、校友を中心とした教職員、学園関係者が、よく、その重責を担われ、これまでの難局を打開され、今日の学園の礎を築かれましたことに敬意を表するものであります。

今日、光輝ある学校法人工学院大学として、本学園を目指す学生・生徒はその数、年々増加の一途をたどり、その社会的評価は、ますますゆるぎないものとなっております。

加えて、本学園を卒業し社会各層において活躍される校友は既に10万余名の多きに達しております。

このことは、明治初期の政府・工業界の要請に応え近代技術を駆使できる有為な人材養成を眼目とした工手学校が、その創立以来この百年の永きに亘り、人類・社会のためにいささかなりとも貢献してきたものと自負いたしておるところでございます。

幸いにして、本学園は校友の皆様のご支援とご協力の下に再び他に類例のない学園創造、すなわち

「都心型学園」に挑戦いたし、今、花開かんとしております。

そして、愈々目前にした学園創立百周年。この百周年の節目は、誇るべき先人の志を継承し、さらにこれを再生して未来へ引き渡す機会と存じます。

また、学園の生命は高い知性と豊かな教養に根ざした人間のための工学を探究しつつ、研究・教育の充実・発展の中断なき継続にあると考えます。その意味におきまして、この百周年記念事業は大いなる成功を取めなければなりません。

現在、百周年記念事業は、校友会役員の方々のご尽力を得まして鋭意検討中であり目下、進められつつあります活動の概況は学園広報紙「窓」等を通してお伝え申し上げます。

この百周年記念事業の一つ一つの成功が新しい「都心型」学園の構築と合体するとき、21世紀の学園の存在が社会に証明されるときであるかと存じます。

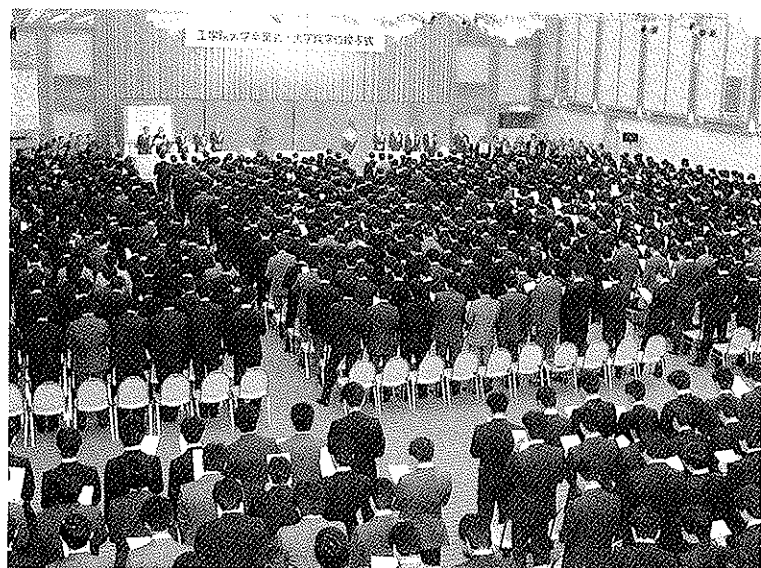
そして、そのことが先人の築いた誇りと榮譽に應える途であると確信いたしております。それ故、理事会は学園新生のため、粉骨砕身その実現に邁進する覚悟にございます。

校友の皆様におかれましても学園の大いなる発展のために絶大なるご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。



工学院大学
学長 北郷 薫

明治20年（1887年）に本学園の前身である工手学校が設立されてから今年で100年になります。工手学校は私立の工業学校としては、日本で最初の学校であり、日本の工業教育史上、特筆すべき光栄を担っております。明治20年といえば日本の工業が西欧先進諸国の工業に追いつくためにスタートを切ったばかりの時でした。工手学校の卒業生の方々が日本工業の発展に



▶京王プラザホテルで行われた卒業式風景

尽された功績は本学の歴史に記されているとおりであります。

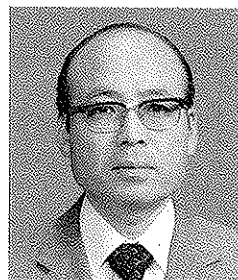
時代が進むにつれ、日本国内には工業教育を行う国・公・私立の学校がたくさん出現いたしました。したがって本学園も「ただ一つの学校」といった特権がなくなり苦しい競争のもとに置かれたと申すことができます。しかし、いずれの時代にも真面目な努力を続けて、それぞれの時代の工業教育に貢献してきたことは誇りとするところであります。

この100年間に、本学園はいろいろの変遷を経ましたが現在では大学、高等学校、専門学校の一つの学校から成り立っています。この三つの学校がそれぞれ特色ある学校となることが本学の将来の発展にとって最も大切なことであります。

本学園が現在、推進している新宿校地再開発計画は、日本全国どここの学園にも先がけて実行している大計画であります。ちょうど100年前に日本最初の私立の工業学校として設立された誇りが、いま、日本最初の手法によって新宿校地を再開発し、近代的な新校舎を建設するという誇りを生んだものといえましょう。新宿の新校舎は日本一の高さの大学棟になるはずであります。このようなことは決して意味のないことではありません。建物はその内部で働く人々の精神を表現いたします。そのような意味において、新宿新校舎は本学園の人々がつねに高く向上しようという意欲をも

っていることの表現とみることができます。もともと、本学園で行っていた教育研究は良いものでありましたが、新宿新校舎と、すでに昨年来をもって一段落している八王子整備計画により新設された研究群との活用により飛躍的に向上するものと期待されています。

校友会会員各位の御声援を期待するところであります。



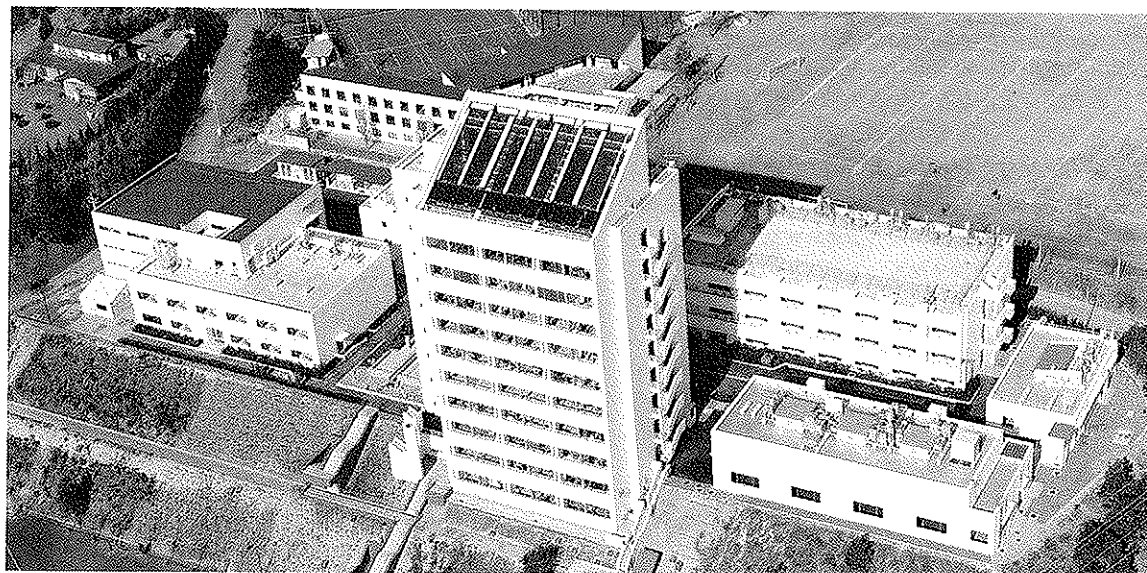
八王子
管理長 布施敏夫

創立100周年を迎えるに当たり、校友の皆様への学園にたいする日頃のご協力、ご支援にたいして厚くお礼申し上げます。今、学園は将来計画大綱に則り総力をあげてその大変革に取り組んでいるところです。新宿校地の再開発もいよいよ開始されようとしていますが、それを可能ならしむべく、八王子キャンパスの丘の上に5号館から11号館にいたる7棟の研究・実験棟が昨年12月に完成し、20日に盛大なる落成式を行いました。

その概略を説明しますと、中心となる5号館は地下2階、地上9階建てで、地下2階は主としてエネルギー供給センターの役目を果たす電気室、ポンプ室、設備機械室となっています。地下1階には中央監視室、コンピューター室などの最新の設備及び化学系実験室があります。地上は1・2階が化学系実験・研究室、3階から8階まではすべて電気・電子系の実験・研究室

となっています。9階は学会や学外者との会議などに利用する多目的ホールで、ここからの展望はすばらしく、晴れた日には東に新宿の高層ビル群、西には丹沢山塊や富士の嶺を望むことができます。なおこの5号館の特徴は、屋上に斜めに取り付けられたソーラーパネルでしょう。これは11号館の床下の土中蓄熱装置と結ばれ、7号館の水素エネルギー蓄熱システムとともに9階及び地下の空調に利用されています。

そのほか6号館（平家建）は機械工学科の内燃機関などの大型実験棟、7号館（平家建）は化学工学の水素エネルギー実験棟で、その蓄熱設備は国内外から注目されているものです。8号館（3階建）は機械工学科、9号館は電子と建築学科の音響実験棟、10号館は電気系高圧実験棟、11号館は建築系大型加力実験棟となっています。これらはいずれも大規模、大重量の実験設備で、新宿校地には適合しないものばかりです。このように、両キャンパスは相互補完的に一体となって有機的に機能し、複眼構想のもとに都心型学園を目ざして着々とその地歩を固めつつあります。設備の充実と同時に教育内容の見直しや、21世紀を見通した教育理念の構築など、解決すべき問題は多々あります。創立100周年を迎えて私達学園の全構成員は、校友の皆様が築かれた伝統をさらに発展させ、栄光ある学園を創造すべく決意を新たにしております。今後とも皆様の一層のご指導、ご援助を切にお願いいたします。



▲八王子校舎5号館～11号館



高等学校
校長 遠藤 鎮雄

人として、よく上寿の齢を保つことの至難なことは言うまでもないが、学校が100周年を迎えるのも容易ではない。ましてや命脈を保つだけでなく、真に存ぐに足る状態で、これを記念するに於てはなお更である。

わが学園は幸にしてこれができた。新宿校地再開発という大事業を以て100周年を見事に飾るのであり、まことに大慶としなければならない。それにつけても、この幸いをなさしめたことに関し、まず歴史的にもかえりみて、先人の遠眼と努力とに思いを馳せ、感謝しなければならず、忘れてならないところである。

『工学院大学学園七十五年史』によれば、大正13年、30余カ所の校地候補地を定め検討、校長的場中の最終決断に従い、現在地（当時は東京府豊多摩郡流橋町大字角等字辻93番地と呼称）を15万円で購入したとある。これに先だち、京橋区小田原町の旧校舎地を34万余円で売却しているから、上手な買物をしたと言えよう。しかし続いての新校舎建造は難事であったが、学校当局の出費に頼ることなく、すべて校友の拠出、業界の支援でまかなうという、他に例のないやり方でこれを遂げた。出身者の熱願が偲ばれ、特筆に備いする。深く記銘したい。

ところでこの新宿進出は、関東大震災で校舎焼失と

いう悲運を、郊外に目を向け、福に転じた英和の所産であった。そしてこのたびの再開発は、新宿の副都心化の分析の中で、都心地を守ろうとした英断である。「校舎は高く聳えたり」という「学園歌」が有名無実となっていた歎きもここに解消し、まもなくこの歌が、いわば誇からに復原する。伝統は護持され、しかも飛躍を見るのである。

終りに個人的な感懐を加えさせて頂く。25年前の75周年記念の折、100周年時には、私が学園におることはあるまいと、ひそかに思った。ところがその年を迎え得た。冥加のようなものを感じ、或は不謹慎と言えるかもしれないが、自らの記念碑的意義も含まれてきて、この100周年が、実にわがことのように思われ、祝賀の念ひとしおなのである。

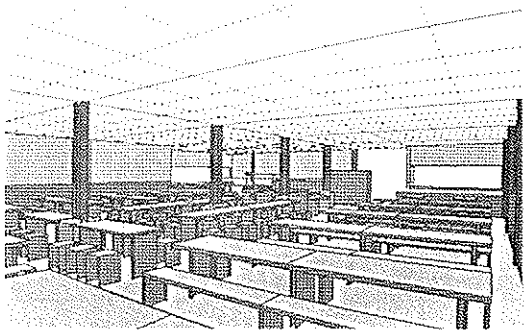
昭和61年度3年生進路状況報告 (62.3.31現在)

		普通科				工業科				全体					
		組	組	組	計	組	組	組	計	合	%				
進	大	29	21	23	35	107	47.6	3	3	4	5	15	7.5	122	28.6
	学	2	2	1	0	5	2.2	1	1	1	1	4	2.0	9	2.1
	計	31	23	23	35	113	50.2	4	4	5	6	19	9.5	131	30.8
	短期大学	1	1	0	0	2	0.9	0	1	0	0	1	0.5	3	0.7
	計	32	24	23	35	114	51.1	4	5	5	6	20	10.0	134	31.5
学	大	5	6	5	2	18	8.0	4	3	14	9	29	14.4	47	11.6
	学	12	16	13	20	61	27.1	17	24	16	11	67	33.3	128	30.6
	計	17	22	18	22	79	35.1	21	27	30	20	96	47.8	175	41.1
	計	49	46	41	57	183	85.8	25	32	35	26	116	57.7	309	72.5
就	社・他	1	1	6	0	8	3.6	14	18	12	12	56	27.9	64	15.0
	業	0	0	1	0	1	0.4	0	0	2	1	3	1.5	4	0.9
	計	1	1	7	0	9	4.0	14	18	14	13	59	29.4	68	16.0
未	定	7	10	6	0	23	10.2	7	6	9	2	24	11.9	47	11.6
合	計	57	57	54	57	225	100	46	56	58	41	201	100	426	100

食堂・通称「ホール・グリーン」完成

床・テーブル・椅子等はすべて木質で軟かい落ち着いた雰囲気を出すよう配慮してある。入口の欄間にあたる所には、61年度卒業生寄贈のスティンドグラスが嵌め込まれ、彩りを添えている。

座席数は200席、昼食は三交替で約600食を提供する予定で、各自ディッシュを選ぶキャフェテリア方式をとっている。因みに総工費は約1億5千万円である。



専門学校
校長 鈴木敬治郎

工学院大学専門学校は、本年3月に、夜間部は第187回、昼間部は第7回の卒業式を迎える。本校は昭和54年4月に昼間部が開設されるまでは、夜間部だけの学校であった。本校の前身である築地の工手学校が設立されたのが、ときの東京大学工学部の先生方が、中堅技術者養成を目指し、ご自分の余暇である夜の時間を教育にあてることに端を発したもので、今年創立百周年を迎える。しかし、世の移り変わりとともに夜学に対する必要性は次第に変化し、とくに近年に到っては、昼働いて夜勉学するという考えは衰微し、昼の学校に合格できなかった夜の学校にでも通うか、という人が増え本来の夜の学校の意味が失なわれてきている。こうして勤労学生としての色彩が少なくなり、学費を親が負担する傾向が強くなるにつれ、昼間部を希望する者が増え夜学へのニーズは減少してきた。このような風潮により夜間部だけの本校は、入学者が減少し、まさに経営の危機に陥ったが、幸にも昼間部開設

により危機を脱し、今日では学校拡充のための積立もでき、将来の発展に備えられるようになったことは嬉しいことである。

近年本校の昼間部の発展は目覚しく、就職の良さを反映してか入学希望者が数多く、入学選抜試験を行い、平均競争率は約3倍、科によっては4倍を越すところもある。工業専門学校で入学試験を行う学校はあるが、実際に備い落とすことのできる学校は非常に少数である。このように入学者を選抜できることは、良い人が入学して、立派な工業技術者として送り出すことができ、ますます良い学校となるので、学校として大変望ましい状態である。これも一重に百年に亘る伝統の賜物と感謝に堪えない。

しかしここで校友の皆様は報告しなければならないことがある。それは夜間部の金属コースと造船コースの募集を停止したことで、両コース共日本の産業構造から考え専門学校レベルの学科として存続が難しく、遂に生徒の募集を停止し、この3月でこれらの科の生徒は1人もいなくなる。誠にやむを得ない処置としてご了承をお願いする次第である。しかしながら、これ等の科に代って電子情報科と建築設備科を世のニーズに応え新設し、夜間部入学者の減少に歯止めがかかり、入学希望者が増加するようになった。今までの百年よりこれからの百年に向け、今後共教育職員OB全員のご協力をお願いする。

専門学校・近況報告

61年度春秋の二大行事

第2回球技大会：5月18日八王子校舎において、ソフトボール、バレーボール、卓球、テニス、リレーの5種目をクラス対抗（昼夜間部）で行いました。62年度からは、これにサッカー、水泳、スキーを加えたものを、正科の体育（昼間部のみ）として、夏休み冬休み中に実施することが決っております。

第39回製図作品展：11月22日～24日本館2階で開催、なかなかの傑作揃いでした。応用化学科展示室には最新の実験装置が陳列されて技術の進歩をうかがわせ、またOB企業展示室が初めて設けられ、産業界の第一線で活躍する先輩達の活躍振りを如実に感じさせられました。

61年度就職状況

約500名の求職者に対し、延4,030社、6,580人（前年比3%増）の求人がありました。円高不況の影響で秋以降は求人が途絶え、ぐずぐずと選択を延ばした連中には厳しい状況となったようです。主な就職先は、NTT東京総支社3人、清水建設本店12人支店6人、キャノン5人、日産自動車、小田急など資本金100億円以上45人、呉羽化学工業、サンケン電気、コバルなど資本金10億円以上51人、内藤電誠工業6人、荏原実業3人、伏見建設4人など資本金1億円以上97人、2月14日現就職内定385人中10億円以上の会社が25%（昨年17%）です。

創立100周年記念事業計画について

募金趣意書

学校法人工学院大学は、昭和62年に創立百周年を迎えます。

本学園の始まりは、明治20年帝国大学総長渡辺洪基らの発意により、工業技術者養成の機関として発足した工手学校であります。以来さまざまな困難に遭遇しながらも、これを乗り越えて着実な発展を重ねてまいりました。

現在は、大学院・工学部(第1部・第2部)から成る大学と、高等学校および専門学校を擁する工科学系学園として、専任教職員 500余名、学生・生徒 9千数百名が、日々教育・研究に、そして勉学にいそしんでおります。

私立大学にとって当面する大きな課題は、大学の進学人口が昭和67年にピークに達し、その後急減するという事態に対し、適切な対応策を計ることにあります。本学園でも、教育・研究内容の質的充実と特色化によって、この時代を乗り切る所存であります。また科学技術の進展に則し、未来社会に適応し得る人材を養成するために、施設・設備の改善につとめております。

八王子校他に、昭和58年以来約60億円を投じて建設中でありました厚生棟、排水処理施設、3号館及び研究実験棟5～11号館は、すべて昭和61年

度に完成いたしました。また、新宿校地再開発につきましても、隣接地権者との共同開発を行うこととし、着々計画を推進中であります。昭和62年7月頃には、都心型大学の構想に基づく我が国初の超高層校舎が着工の運びとなる予定であります。この再開発資金につきましても、新しい手法により、すべて隣接地権者から賄うことになっております。

ここに創立百周年を迎えるに当り、一世紀に及ぶ歴史をふり返り、諸先輩の努力と功績を偲び、今後の一層の発展を期して、記念事業を計画し、栄えある伝統を後世に伝えたいと存じます。

只今の経済環境は、急激かつ大幅な円高の影響で沈滞期にあり、このような時期に御寄付をお願い申し上げるのは、まことに心苦しいことではあります。学府という特殊な社会的事業体であることをご理解下さいまして、格別のご援助を賜りますようお願い申し上げます。

昭和62年 4月

学校法人工学院大学理事長 創立100周年記念事業募金委員会委員長 高山英華

記念事業計画大要

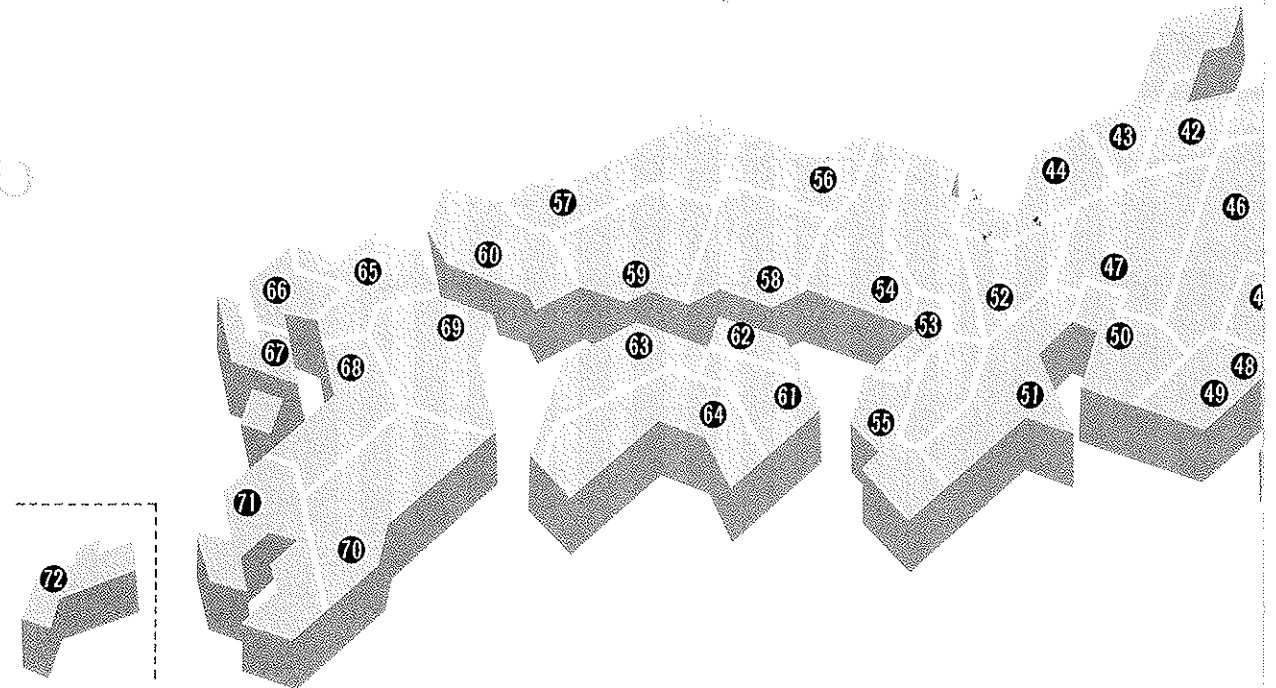
1. 総合工学研究所 事業費 3億円 延床面積約1,000㎡、広く学園外の企業にも開放する。
2. 100周年記念体育館 事業費 6億円 延床面積約3,000㎡、広く一般にも開放する。
3. 教育研究設備 事業費 1億円 C A I教育システム
4. 研究奨励基金 事業費 2億円
5. 奨学基金 事業費 1億円 対象は、全学園学生・生徒
6. その他 創立100周年記念式典・祝賀会、記念講演会、100年史の編纂・刊行、記念写真集の刊行等

最近の施設整備状況

- 昭和54年 新宿校舎南館及び八王子校舎図書館分館竣工
- 55年 軽井沢学寮竣工
- 56年 富士吉田セミナー校舎竣工
- 58年 八王子校舎学生部室棟竣工 高等学校美術室増築
- 59年 八王子校舎厚生棟及び排水処理施設竣工
- 60年 八王子校舎3号館竣工
- 61年 八王子校舎5号館～11号館(7棟)竣工

校友会支部一覧

支部名	支部長氏名	電話	支部名	支部長氏名	電話
① 北海道支部	今野正治	011-821-4919	②④ 杉並支部	会田惣太郎	0422-47-3096
② 青森県支部	木村健	0177-38-2818	④ 豊島支部		
③ 岩手県支部	鈴木綱五郎	0196-35-9947	⑤ 板橋支部	小野塚政雄	03-933-4825
④ 秋田県支部	諸沢忠男	0188-73-3933	⑥ 練馬支部	八木平八郎	03-991-2246
① 宮城県支部			⑦ 北支部	鈴木基泰	03-900-7558
⑤ 山形県支部	細谷繁雄	0236-31-2032	⑧ 荒川支部	萩原弘	03-895-3870
⑥ 福島県支部	菊地忠雄	0245-34-1787	⑨ 足立支部	萩野栄吉	03-883-3498
⑦ 茨城県支部	後藤正春	0294-36-1600	⑩ 葛飾支部	福原博	03-691-3904
⑧ 栃木県支部	阿久津利	02867-5-0511	⑤ 江戸川支部		
⑨ 群馬県支部	中島治男	0279-54-4410	⑪ 武蔵野支部	田中大吉*	0423-81-1820
⑩ 埼玉県南支部	新関安生	0482-52-3433	⑫ 田無支部	小笠原松雄	0429-48-0854
⑪ 埼玉県中央支部	相良栄一	0486-83-0247	⑬ 多摩川支部	戸部英瑞	0424-82-6548
⑫ 埼玉県西支部	谷口弘明*	0493-22-1361	⑭ 八南支部	菊池誠次	0426-24-5062
⑬ 千葉県支部	佐藤正吾	0474-48-8801	⑮ 多摩支部	高橋栄次	0425-26-2662
② 千代田支部			⑯ 川崎支部	太田定吉	044-777-6639
⑭ 中央支部	千代田節雄	03-669-0703	⑰ 横浜支部	金田昭治	045-881-6911
⑮ 港支部	加登数太郎	03-451-6352	⑱ 湘南支部	富所良二	0467-44-2677
⑯ 新宿支部	久保政三	03-356-7581	⑲ 相模支部	清水利治	0427-42-5413
⑰ 文京支部	吉田義雄	03-831-6956	⑳ 小田原支部	隈元武彦*	0465-22-8938
⑱ 台東支部	中村直諒*	03-828-0555	㉑ 新潟県支部	谷口宏	02542-6-0087
③ 墨田支部			㉒ 富山県支部	山本修	07665-6-4748
⑱ 江東支部	篠原梅吉	03-641-2379	㉓ 石川県支部	西沢集	0761-44-3823
⑳ 南支部	佐京五八	03-492-4537	㉔ 福井県支部	千田誠一	0778-22-5585
㉑ 世田谷支部	井関良二*	03-468-2041	㉕ 山梨県支部	市川光雄	055664-3318
㉒ 渋谷支部	小林成一	03-460-2621	㉖ 長野県支部	金子貞治	0263-32-2913
㉓ 中野支部	樋口利一	03-383-2996	㉗ 岐阜県支部	松原浩一	0582-32-8085



校友会支部一覽

支部名	支部長氏名	電話
① 北海道支部	今野正治	011-821-4919
② 青森県支部	木村健	0177-38-2818
③ 岩手県支部	鈴木綱五郎	小田島方 0196-35-9947
④ 秋田県支部	諸沢忠男	0188-73-3933
① 宮城県支部		
⑤ 山形県支部	細谷繁雄	0236-31-2032
⑥ 福島県支部	菊地忠春	0245-34-1787
⑦ 茨城県支部	後藤正春	0294-36-1600
⑧ 栃木県支部	阿久津利	02867-5-0511
⑨ 群馬県支部	中島治男	0279-54-4410
⑩ 埼玉県南支部	新関安生	0482-52-3433
⑪ 埼玉県中央支部	相良栄一	0486-83-0247
⑫ 埼玉県西支部	谷口弘明*	0493-22-1361
⑬ 千葉県支部	佐藤正吾	0474-48-8801
② 千代田支部		
⑭ 中央支部	千代田節雄	03-669-0703
⑮ 港支部	加登数太郎	03-451-8352
⑯ 新宿支部	久保政三	電久社内 03-356-7581
⑰ 文京支部	吉田義雄	03-831-6956
⑱ 台東支部	中村直諒*	03-828-0555
③ 墨田支部		
⑲ 江東支部	篠原梅吉	03-641-2379
⑳ 南支部	佐京五八	03-492-4537
㉑ 世田谷支部	井関良二*	03-468-2041
㉒ 渋谷支部	小林成一	03-460-2621
㉓ 中野支部	樋口利一	03-383-2996

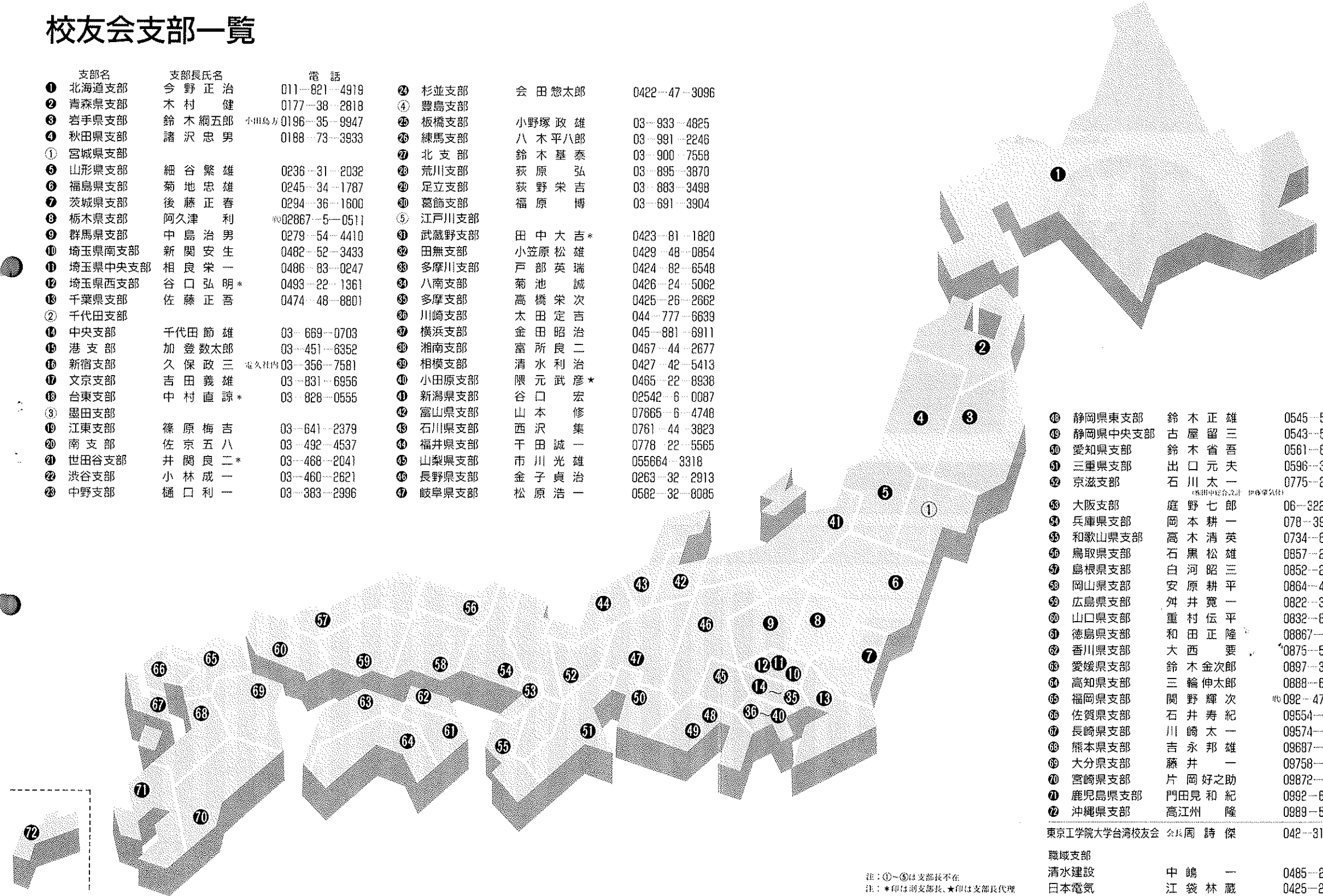
㉔ 杉並支部	会田惣太郎	0422-47-3096
④ 豊島支部		
㉕ 板橋支部	小野塚政雄	03-933-4825
㉖ 練馬支部	八木平八郎	03-991-2246
㉗ 北支部	鈴木基泰	03-900-7558
㉘ 荒川支部	荻原弘	03-895-3870
㉙ 足立支部	荻野栄吉	03-883-3498
㉚ 葛飾支部	福原博	03-691-3904
⑤ 江戸川支部		
㉛ 武蔵野支部	田中大吉*	0423-81-1820
㉜ 田無支部	小笠原松雄	0429-48-0854
㉝ 多摩川支部	戸部英瑞	0424-82-6548
㉞ 八南支部	菊池誠	0426-24-5062
㉟ 多摩支部	高橋栄次	0425-26-2662
㊱ 川崎支部	太田定吉	044-777-6639
㊲ 横浜支部	金田昭二	045-881-6911
㊳ 湘南支部	富所良治	0467-44-2677
㊴ 相模支部	清水利治	0427-42-5413
㊵ 小田原支部	隈元武彦*	0465-22-8938
㊶ 新潟県支部	谷口宏	02542-6-0087
㊷ 富山県支部	山本修集	07865-6-4748
㊸ 石川県支部	西沢集	0761-44-3823
㊹ 福井県支部	干田誠一	0778-22-5565
㊺ 山梨県支部	市川光雄	055664-3318
㊻ 長野県支部	金子貞治	0263-32-2913
㊼ 岐阜県支部	松原浩一	0562-32-8085

㊽ 静岡県東支部	鈴木正雄	0545-52-0160
㊾ 静岡県中央支部	古屋留三	0543-53-3979
㊿ 愛知県支部	鈴木省吾	0561-84-1557
㉑ 三重県支部	出口元夫	0596-36-4685
㉒ 京滋支部	石川太一	0775-22-5373
㉓ 大阪支部	庭野七郎	06-322-0317
㉔ 兵庫県支部	岡本耕一	078-391-0935
㉕ 和歌山県支部	高木清英	0734-62-2622
㉖ 鳥取県支部	石黒松雄	0857-28-1029
㉗ 島根県支部	白河昭三	0852-23-7177
㉘ 岡山県支部	安原耕平	0864-44-8364
㉙ 広島県支部	舛井寛一	0822-37-1720
㉚ 山口県支部	重村伝平	0832-82-0123
㉛ 徳島県支部	和田正隆	08867-2-0677
㉜ 香川県支部	大西要	0875-54-2051
㉝ 愛媛県支部	鈴木金次郎	0887-32-2762
㉞ 高知県支部	三輪伸太郎	0888-63-3140
㉟ 福岡県支部	関野輝次	092-472-7883
㊱ 佐賀県支部	石井寿紀	09554-3-2782
㊲ 長崎県支部	川崎太一	09574-3-3185
㊳ 熊本県支部	吉永邦雄	09687-2-2439
㊴ 大分県支部	藤井一	09758-8-0260
㊵ 宮崎県支部	片岡好之助	09872-3-5300
㊶ 鹿児島県支部	門田見和紀	0992-69-3657
㊷ 沖縄県支部	高江州隆	0989-53-1623

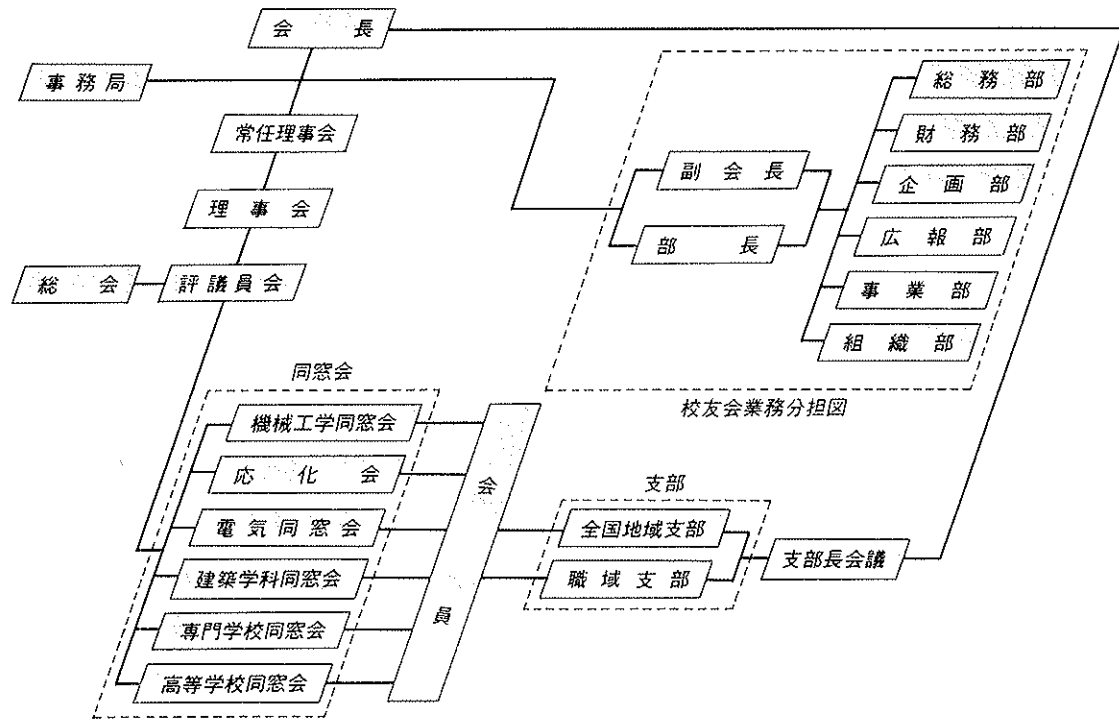
東京工学院大学台湾校友会 会長 周詩傑 042-319230

職域支部		
清水建設	中嶋一	0485-21-3949
日本電気	江袋林蔵	0425-27-8051

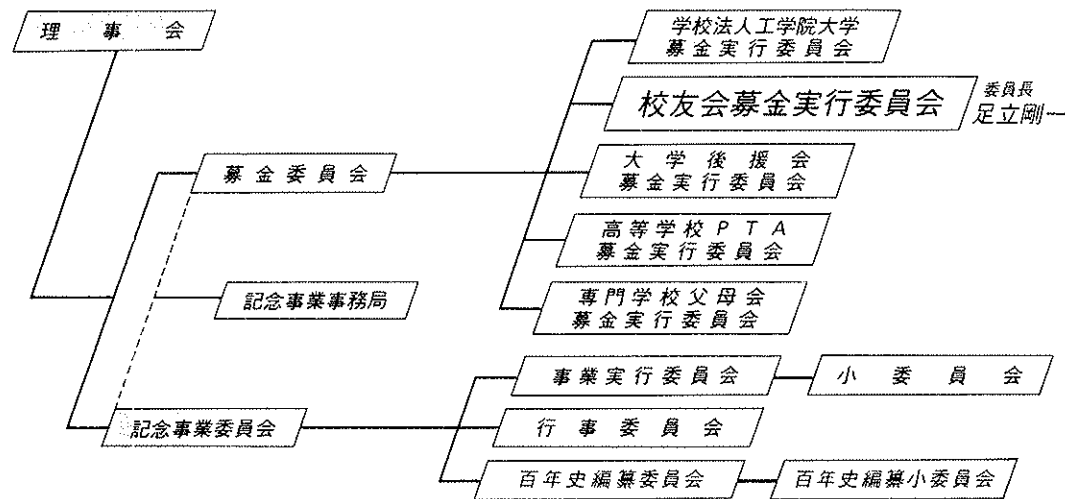
注：①～⑥は支部長不在
注：*印は副支部長、★印は支部長代理



校友会組織



学校法人工学院大学創立100周年 記念事業運営組織



第7回全国大会(千葉大会)開催の報告

今年10月31日は学園創立100周年に当たりますが、「工学院大学学園創立100周年記念事業を成功させよう」をスローガンに、61年9月27日(土)に千葉県船橋市内の「ホテルサンガーデンららぽーと」を会場にして、全国各地より200名近くの参加者を迎えて盛大に開催されました。

当日は〔第一部〕大会、〔第二部〕講演会、〔第三部〕懇親会をもって構成され、〔第一部〕は富所副会長の開会挨拶の後、佐藤大会実行委員長(千葉県支部長)足立大会会長(校友会々長)の挨拶に続き、草野理事長代理、北郷大学々長、大橋船橋市長、丹沢船橋商工会議所会頭の祝辞を受けました。引続、伊藤郷爾学園常務理事の「新宿校地再開発事業計画」では八王子校舎5号館群建設の報告の後、新宿の現在地に昭和62年4月より他に類例のない29階建の超高層大学棟の建設が開始され21世紀に向けて学園創造のスタートを切るとの発表があり、次に関谷学園常務理事より「学園創立100周年記念事業について」では100年史発行、募金活動開始等の計画が述べられました。最後に千葉県支部顧問 佐藤恵治氏より「本学創立100周年事業を成功させよう」の主旨に賛同し、校友会々員の学園募金申込第一号として100万円の申込がなされ、千葉県大会感謝状贈呈が行なわれました。

(氏は会場を飾った、本学園の建築の各時代の写真展示のための資金も寄付して頂き、現在校友会室に飾られています)

〔第2部〕の講演会では「幕張新都心」、「成田国際空港都市」、「上総新研究開発都市」の、千葉、成田、木更津三市を結ぶ「千葉新産業三角構想」と10年後完成を目指す、「東京湾横断道路」等、千葉県の将来構想が、沼田千葉県知事より予定時間を越えて講演され、本学園共々の広大な未来構想に、会場は時のたつのも忘れる程でした。なお千葉県知事には記念として、千葉県支部役員、関善司氏夫人綾子氏の画かれた「フラメンコ」の油絵画が伊藤真治千葉支部常任顧問より贈呈され、現在は知事室に飾られています。

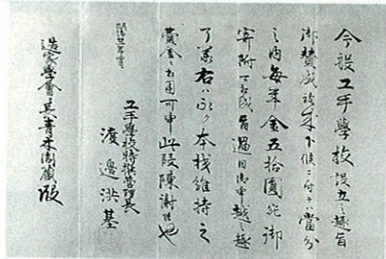
〔第3部〕懇親会は、記念撮影の後大島実行副委員長の司会で開催され、来賓、遠来者の紹介の後、「バカ面」、「ひょっとこ」、「お多福」の面をつけて踊る地元文化財の「バカ面踊り」は会場をわたり歩き、校友も仲間に入っては爆笑の渦が生まれ、全国大会は次第に熱気に包まれる中を、藤野流の日本舞踊等楽しいひとときを過ごしなが、母校と校友会の発展を願い「万才」をもって〔第3部〕を終了致しました。その



後、参加者有志はのど自慢カラオケ大会で、又仲間と学園の将来を語り、2年後の全国大会に想いをはせる想出深い大会も無事終る事が出来ました。

翌日は、「国立歴史民族博物館」、「成田山新勝寺」と「東京ディズニーランド」の三つのコースに分れた見学会は、幸いにすばらしい晴天にめぐまれて、参加者一同千葉大会の最後の旅情にひたる事が出来ました。今回は大会に先だち、全国支部長会議の開催、1年有余に亘る本部役員、事務局、千葉県支部役員の方々の努力と更に、受付その他への千葉支部役員の方々の積極的協力そして、事業紹介広告協賛等、本大会の成功への御協力を心より感謝する次第です。なお大会途中に野口尚一元学長(元理事長)の訃報に接し、全員にて黙祷をし、哀悼の意を表しました。

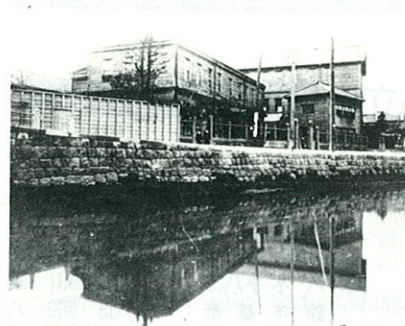
千葉県支部常任顧問 小高鎮夫



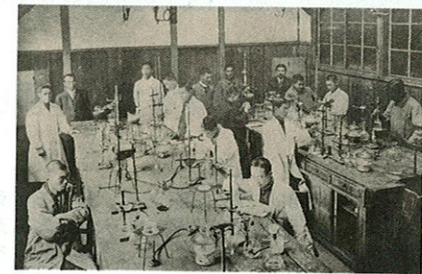
工手学校設立趣意書 学園創立者渡辺洪基



当時の校友会報・東京工業會雑誌に掲載された企業の広告(大正末期)



築地校舎(明治後期)



授業風景(大正7年)

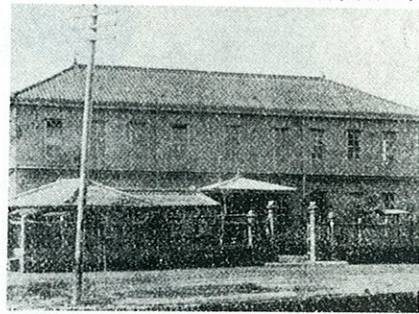


授業風景(大正14年)



明治憲法発布の式典(明治23年)

小田原町校舎(明治29年)



京橋にできた自動電話BOX(大正初期)



工手学校製図室(大正7年)



M21

M30

M45

T 1

T 15

S 1

S 10

1888

1890

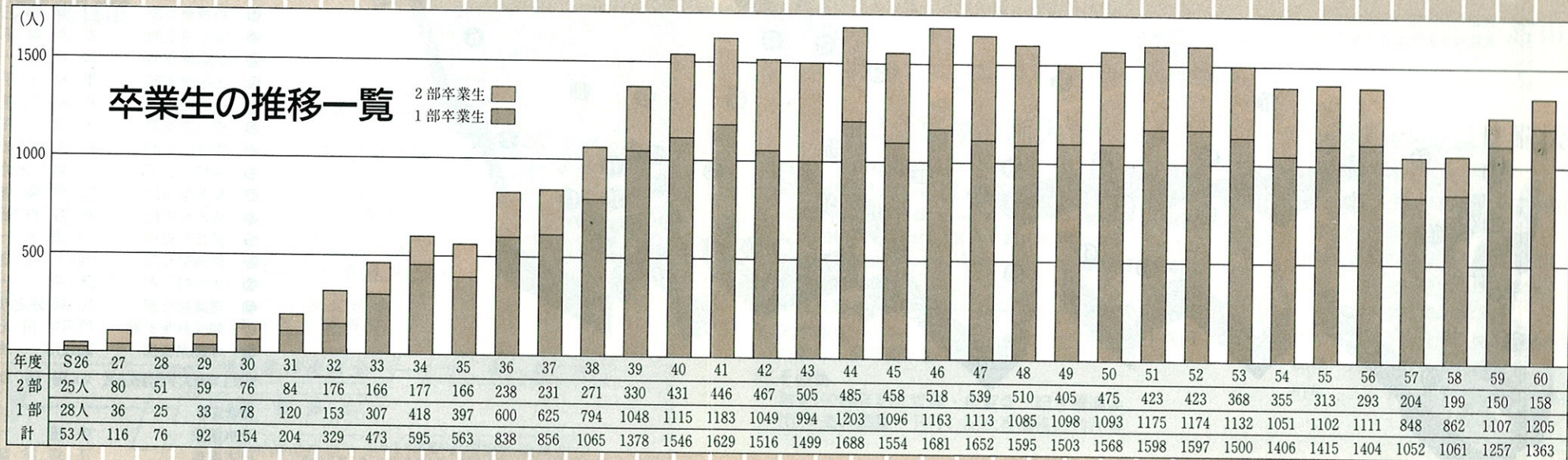
1900

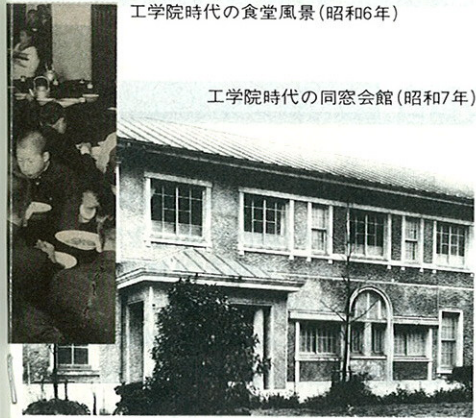
1910

1920

1930

工手学校





工学院時代の食堂風景(昭和6年)

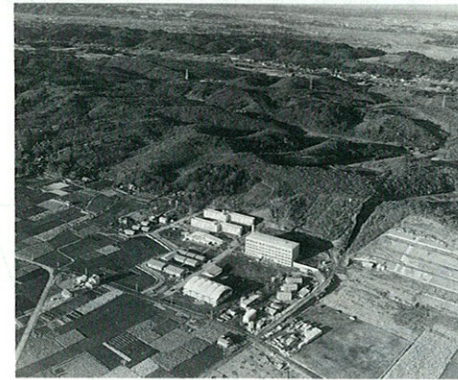
工学院時代の同窓会館(昭和7年)



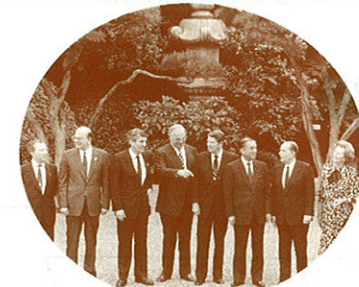
湯川秀樹ノーベル賞受賞(昭和24年)



消費組合売店(昭和36年)



八王子校舎全景(昭和41年)



東京サミット開催(昭和61年)
梅田写真提供 共同通信社



新宿校舎全景(昭和3年)



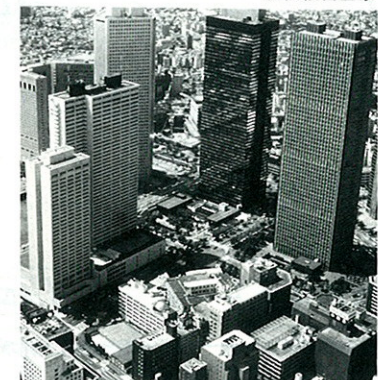
製図教室(昭和30年頃)



測量授業風景(昭和37年)



コンピュータを使った授業風景



新宿校舎全景

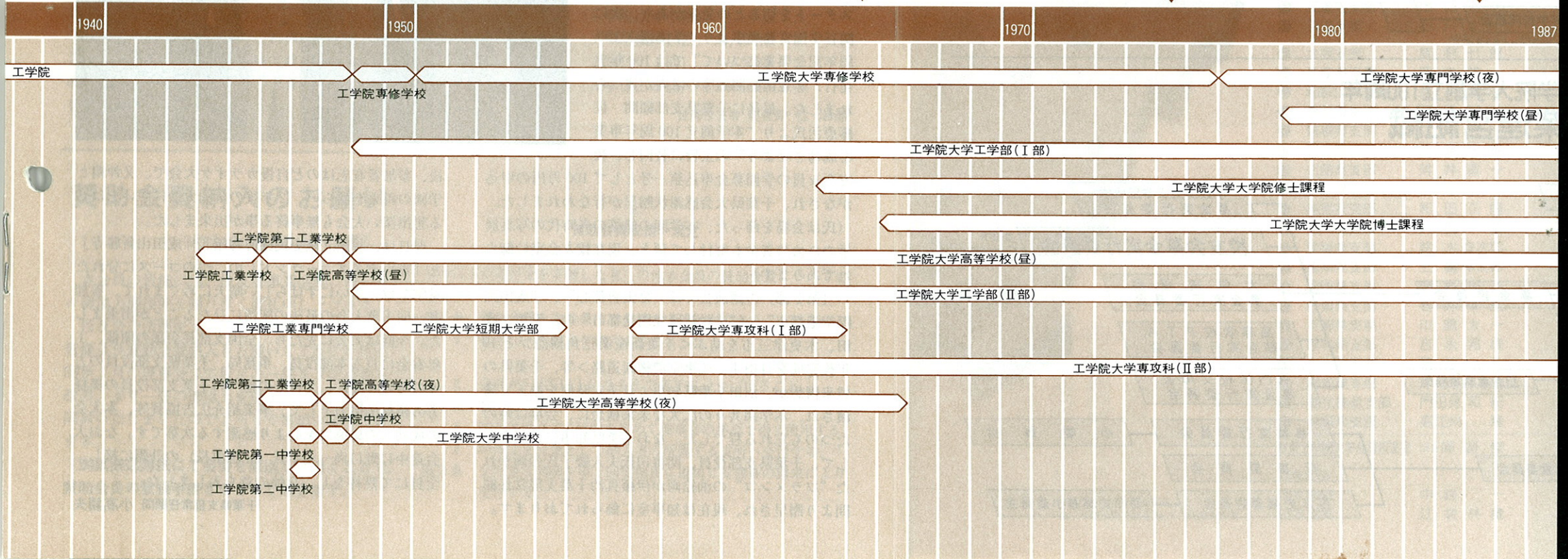
S 20

S 30

S 40

S 50

S 60



第7回全国大会(千葉大会)開催の報告

今年10月31日は学園創立100周年に当たりますが、「工学院大学学園創立100周年記念事業を成功させよう」をスローガンに、61年9月27日(土)に千葉県船橋市内の「ホテルサンガーデンららぽーと」を会場にして、全国各地より200名近くの参加者を迎えて盛大に開催されました。

当日は〔第一部〕大会、〔第二部〕講演会、〔第三部〕懇親会をもって構成され、〔第一部〕は富所副会長の開会挨拶の後、佐藤大会実行委員長(千葉県支部長)足立大会会長(校友会々長)の挨拶に続き、草野理事長代理、北郷大学々長、大橋船橋市長、丹沢船橋商工会議所会頭の祝辞を受けました。引続、伊藤郷爾学園常務理事の「新宿校地再開発事業計画」では八王子校舎5号館群建設の報告の後、新宿の現在地に昭和62年4月より他に類例のない29階建の超高層大学棟の建設が開始され21世紀に向けて学園創造のスタートを切るとの発表があり、次に関谷学園常務理事より「学園創立100周年記念事業について」では100年史発行、募金活動開始等の計画が述べられました。最後に千葉県支部顧問 佐藤恵治氏より「本学創立100周年事業を成功させよう」の主旨に賛同し、校友会々員の学園募金申込第一号として100万円の申込がなされ、千葉県大会感謝状贈呈が行なわれました。

(氏は会場を飾った、本学園の建築の各時代の写真展示のための資金も寄付して頂き、現在校友会室に飾られています)

〔第2部〕の講演会では「幕張新都心」、「成田国際空港都市」、「上総新研究開発都市」の、千葉、成田、木更津三市を結ぶ「千葉新産業三角構想」と10年後完成を目指す、「東京湾横断道路」等、千葉県の将来構想が、沼田千葉県知事より予定時間を越えて講演され、本学園共々の広大な未来構想に、会場は時のたつのも忘れる程でした。なお千葉県知事には記念として、千葉県支部役員、関善司氏夫人綾子氏の画かれた「フラメンコ」の油絵画が伊藤真治千葉支部常任顧問より贈呈され、現在は知事室に飾られています。

〔第3部〕懇親会は、記念撮影の後大島実行副委員長の司会で開催され、来賓、遠来者の紹介の後、「バカ面」、「ひょっこ」、「お多福」の面をつけて踊る地元文化財の「バカ面踊り」は会場をねり歩き、校友も仲間に入っては爆笑の渦が生まれ、全国大会は次第に熱気に包まれる中を、藤野流の日本舞踊等楽しいひとときを過ごしなが、母校と校友会の発展を願う「万才」をもって〔第3部〕を終了致しました。その



後、参加者有志はのど自慢カラオケ大会で、又仲間と学園の将来を語り、2年後の全国大会に想いをさせる想出深い大会も無事終る事が出来ました。

翌日は、「国立歴史民族博物館」、「成田山新勝寺」と「東京デイズニーランド」の二つのコースに分れた見学会は、幸いにすばらしい晴天にめぐまれて、参加者一同千葉大会の最後の旅情にひたる事が出来ました。今回は大会に先だち、全国支部長会議の開催、1年有余に亘る本部役員、事務局、千葉県支部役員の方々の努力と更に、受付その他への千葉支部役員の方々の積極的協力そして、事業紹介広告協賛等、本大会の成功への御協力を心より感謝する次第です。なお大会途中に野口尚一元学長(元理事長)の計報に接し、全員にて黙祷をし、哀悼の意を表しました。

千葉県支部常任顧問 小高鎮夫

台湾支部総会だより

月日の経過は早いもので、台湾校友会支部も一昔を経ました。昨年は、支部創立10周年祝いを兼ねて、台湾を離れ、一番近くの沖縄支部と親睦を図る為に那覇市での沖台合同総会に参加しましたが、今回は当地の首都台北市の日本料亭「菊元」において、1986年12月28日忘年会を兼ねて総会を開きました。

周会長が、校友会本部より届けられた校友会旗を会場に飾り付けました。

開会の挨拶に続いて本部から届いた学園広報紙「窓」その他の資料に基づいて母校の近況が報告されました。母校の新宿校地再開発が今日本の新聞に報せられ、一坪の地価が台湾の金にして二千万円近くに当るのには全く驚きました。

また、母校創立100周年記念式典の話もあって、出席者一同記念式典参加に行くことが決り8月中旬に初めて会合を開いて討論し決定することになりました。

台湾の校友は皆還歴を越えています。そこで老人同志の親睦を深める為に、総会を春秋2回開き夫人同伴で一泊旅行を兼ねた会にしようとした楽しい話しになりました。

台湾校友会の発展のため、台湾の青年を母校に入学させる為に特別の計いを設けて貰うよう陳情しようとの話しもあって、8月の再会を楽しみに懇親会を終了しました。



今回の出席者は、次のとおりですが、現在台湾校友会は12名です。3人が海外に行って居り4人が都合で欠席しました。

陳 振 鏢 (工専化工1回)
駱 柳 村 (工学院土木7回)
劉 維 隆 (工学院機械10回) 夫人同伴
周 詩 傑 (工専化工1回) 夫人同伴
杜 瑞 昌 (大学化工5回) 夫人同伴

台湾校友会 前会長 杜 瑞昌

賛助会費納入のお願い

校友会 会長 足立剛一

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々御協力御援助を賜り厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実の為の運用資金援助として皆様より賛助会費納入をお願いしておりますが、59年1月の理事会にて規定の一部を下記の通り改め、より一層の御協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしく御願ひ申し上げます。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせていただきます。

記

賛助会費取扱い規定

本規定は定款第6条(賛助会員この法人の目的事業を後援し、5万円以上の寄付金を寄贈した者)の他本会員の賛助会費について定める。

- 第1条 賛助会費を次の条件で分納することができる。
- 1 毎年2000円以上を納入すること。
(2000円を単位として増額できる)
 - 2 合計が5万円以上になるまで毎年払いつけること。
- 第2条 賛助会費は次のように使用する。
- 1 70%は積立てて目的を定めて理事会の承認を得て使用する。
 - 2 30%は交付金として納入者の所属する支所へ交付する。
- 第3条 交付金は明細を年1回支部長に通知し支部長の請求により交付する。

部会報告

総務部

昭和61年度の校友会活動を理事会その他の活動を通じて報告いたします。

第1回理事会 (61・4・11)

- 議事 1. 60年度決算について
- 2. 役員の役割分担について
- 3. 総会及び評議員会について
- 4. 名誉会長承認について

第2回理事会 (61・9・18)

- 議事 1. 学園創立100周年記念事業募金について
- 2. 宮崎県支部規則承認と役員の委嘱について
- 3. 全国大会の進行状況について

第3回理事会 (62・1・22)

- 議事 1. 学園創立100周年記念事業募金の目標について
- 2. 次年度予算編成方針について

第4回理事会 (62・3・20)

- 議事 1. 62年度事業計画及び予算案について
- 2. 諸規定改訂について
- 3. 顧問・相談役推せんについて

事業部

1. 全国大会(千葉大会)

今年度の全国大会は、昭和61年9月27日千葉県船橋市ホテルサンガーデンららぽーとにおいて行われた。

北郷学長始め学科主任教授及び常務理事、専門学校長等の来賓を迎え、また地元から沼田千葉県知事、大橋船橋市長他の方々のご出席を頂き盛大に行われた。会員の出席は130余名と来賓を含め150余名となり今までになく盛会であった。

翌日は見学コースとして、東京ディズニーランドと国立歴史民族博物館・成田山新勝寺に分かれて行われ

財務部

61年度以降の財務部は財務理事内山太氏をはじめメンバーが一部変更して、去る61年7月3日に開催した財務部会において仕事分担について検討し、同年9月17日はこれまでの経過報告とその分析および今後の財務検討を行った。また同年10月20日には月次会計報告、同11月27日は来年度予算編成について討議した。

さらに62年2月12日には各部会から提出された予算

昭和61年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通り。(回数)

- 評議員会 (61・5・25)
- 総会 (61・5・25)
- 支部長会 (61・9・27)
- 理事会……………4
- 常任理事会……………10
- 総務部会……………3
- 財務部会……………6
- 広報部会……………13
- 企画部会……………6
- 事業部会……………4
- 組織部会……………6
- 監査会……………1
- 学園校友評議員集會……………5
- 全国大会(千葉大会) (61・9・27)
- 新年懇親会 (62・1・18)

この他、各種委員会等が多数開催された。

ました。

2. 新年会

昭和62年新年会は、1月18日(日)に新宿校舎8階会議室において、学園から北郷学長、鈴木専門学校長、主任教授等多数の先生方が来賓としてご出席を頂き盛大に行われました。懇親会においては、校友会役員の紹介など、また全国の出席支部長の紹介があり、宴中先輩後輩が意気投合し旧知を温め、また各先生方を囲み昔話に花を咲かせ和やかなうちに新年会を終了しました。

案を総括的に検討を行った。また校友会の財務の将来性を確かなものにするため、中長期財務ビジョン検討委員会を財務部会の下部小委員会として、今後の財務で詳細な検討を行う方針が決った。この小委員会は1~2年の期間内に答申案を練り、理事会に提示する予定になっている。62年3月17日はさらに61年度の決算および62年度予算案について検討を行った。

校友会だより

昭和61年度支部活動(総会)報告

日付	支部名	日付	支部名
61年4月6日(日)	千葉県	61年9月6日(土)	兵庫県
6日5日(木)	中野(東京)	20日(土)	北海道
8日(日)	山形県	11月3日(月)	新潟県
22日(日)	湘南(神奈川)	8日(土)	港(東京)
7月5日(土)	多摩(東京)	12月7日(日)	鹿児島県
5日(土)6日(日)	大阪	28日(日)	静岡県東支部 富士地区結式大会
6日(日)	川崎 30周年記念	28日(日)	台湾
26日(土)	山口県	62年1月31日(土)	千葉県 新年会
8月23日(土)	小田原(神奈川)	2月11日(水)	愛知県 新年会
	宮崎県	21日(土)	八南(東京)

叙勲

校友 三木珍治殿
工学院機械科昭和8年3月卒業 三木ブーリ株式会社社長

勲五等双光旭日章を
受賞されました。

訃報

- 初代校友会々長 野口尚一(97才) 61.9.27 逝去
 - 校友会元会長 西崎春吉(93才) 61.5.22 逝去
 - 前湘南支部長 久保田伴治(72才) 62.1.11 逝去
 - 川崎支部副支部長 鈴木和夫(61才) 62.1.11 逝去
 - 名誉会長 前島為司(76才) 62.2.12 逝去
- 謹んで哀悼の意を表します。

表彰規程

(目的)

- 第1条 この規程は、社団法人工学院大学校友会(以下「校友会」という。)の会員及び職員が、校友会の発展に努め、その功績顕著な者に対し、表彰を行うことを目的とする。
- 2 会員及び職員並びに学園教職員が、社会的功績により、受賞されたことに対して祝意を表すことを目的とする。

(表彰の種類)

- 第2条 表彰は、次の通りとする。
- (1) 表彰状
- (2) 感謝状
- 2 前項に規定する表彰には、記念品を付して行うことができる。

(表彰状)

- 第3条 次の各号に該当する者には、表彰状を贈って謝意を表すものとする。
- (1) 会長の任に在りその職を退いたとき
- (2) 職員が、勤続15年以上に達したとき
- (3) その他校友会の発展に務めた具体的功績があったものと常任理事会が認めたもの

(感謝状)

- 第4条 次の各号に該当する者には、感謝状を贈って感謝

の意を表すものとする。

- (1) 連続二期以上、理事及び監事の任にありその職責を尽くし、校友会発展に寄与した功績が顕著であったと常任理事会が認めたもの
- (2) 支部長として10年以上に亘り支部発展に尽くし勇退した場合、次期支部長からの申請により常任理事会が認めたもの
- (3) 会員が、校友会の発展に結びつく功績が顕著なものと常任理事会が認めたもの
- (4) 校友会に一件10万円相当以上の金品を寄贈したものの

(功績賞)

- 第5条 会員及び職員並びに学園教職員が、叙勲もしくは同等の賞を受けたときは、記念品を贈呈しお祝いする。ただし、受賞の日から6か月以内に校友会事務局へ届けだたものとする。

(表彰の時期)

- 第6条 表彰は、定期総会において行う。ただし、特に必要と認めた場合は随時行うことができる。

付 則

この規程は昭和62年4月1日より施行する。
(昭和62年1月22日の理事会承認)

社団法人 工学院大学校友会
第41回評議員会 第31回総会 開催のお知らせ

会長 足立 剛一

日時 昭和62年5月24日(日)13時~17時

場所 工学院大学講堂(新館4階)

議案 (資料参照)

第1号 昭和61年度事業報告並びに収支決算報告承認の件

第2号 昭和61年度財産目録承認の件

◎監査報告

第3号 昭和62年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

(注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。

(注2) 施行細則第10条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承ください。

昭和61年度事業報告書

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 八王子校舎5号館群の落成に際し教育環境整備の一助として寄付を行った。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生を各学校毎に表彰した。 高校自然科学部が文部大臣賞受賞に対し表彰した。
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行。 2. 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 全国大会(千葉大会)で講演会を行った。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 校友会諸設備および校友会館の建設 校友会事務室、会議室等を整備し、将来校友会館を建設するための具体的計画を促進した。 2. 全国大会千葉大会を開催した。新年懇親会を開催した。 3. 支部の支援、支部組織の活性化を図った。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所等の紹介を行った。
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	新宿校地再開発に協力した。

昭和61年度収支計算書

昭和61年4月1日より昭和62年3月31日まで

支出の部

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
1 事業費 (7,469,000)	(7,469,000)	(7,469,000)	(0)	1 基本財産収入 (350,000)	(350,000)	(403,457)	(53,457)
学園協力費 1,600,000	1,600,000	1,600,000	0	2 会費収入 (30,558,000)	(30,558,000)	(32,045,640)	(1,487,640)
会報出版費 1,400,000	1,400,000	1,400,000	0	機械 4,018,000	4,018,000	4,018,000	0
学生奨励金 483,000	483,000	483,000	0	応化会 2,929,000	2,929,000	2,927,000	△ 2,000
支部対策費 1,726,000	1,726,000	1,726,000	0	電気 4,622,000	4,622,000	4,622,000	0
総会等大会費 600,000	600,000	600,000	0	建築 3,550,000	3,550,000	3,550,000	0
広報部費 320,000	320,000	320,000	0	高校 5,010,000	5,069,640	5,069,640	59,640
組織部費 130,000	130,000	130,000	0	専門 7,629,000	7,747,500	7,747,500	118,500
事業部費 210,000	210,000	210,000	0	賛助会費 2,800,000	4,111,500	4,111,500	1,311,500
企画部費 200,000	200,000	200,000	0	3 事業収入 (100,000)	(100,000)	(105,000)	(5,000)
賛助会費積戻金 800,000	800,000	800,000	0	寄附金収入 100,000	100,000	105,000	5,000
2 運営費 (7,711,000)	(7,283,695)	(7,283,695)	(427,305)	4 雑収入 (5,900,000)	(5,900,000)	(3,827,046)	(△ 2,072,954)
本部会議費 673,000	630,660	630,660	42,340	受取利息 5,850,000	3,802,986	3,802,986	△ 2,047,014
役員交通費 600,000	446,270	446,270	153,730	雑収入 50,000	50,000	24,060	△ 25,940
旅費交通費 200,000	70,760	70,760	129,240				
通信費 4,276,000	4,276,000	4,276,000	0				
振替手数料 50,000	50,000	50,000	0				
事務用品費 1,462,000	1,429,655	1,429,655	32,345				
貸借費 150,000	141,600	141,600	8,400				
対外費 50,000	11,920	11,920	38,080				
慶弔費 100,000	100,000	100,000	0				
公租公課 100,000	92,040	92,040	7,960				
雑費 50,000	34,790	34,790	15,210				
3 人件費 (5,864,000)	(5,864,000)	(5,864,000)	(0)				
給与手当 5,614,000	5,614,000	5,614,000	0				
退職給与引当金 200,000	200,000	200,000	0				
福利厚生費 50,000	50,000	50,000	0				
4 固定資産支出 (1,500,000)	(1,387,500)	(1,387,500)	(112,500)				
設備造作 1,500,000	1,387,500	1,387,500	12,500				
5 積立預金支出 (12,000,000)	(12,878,050)	(12,878,050)	(△ 878,050)				
会館積立金 10,000,000	10,000,000	10,000,000	0				
賛助会費積立金 2,000,000	2,878,050	2,878,050	△ 878,050				
6 予備費 (2,364,000)	(909,060)	(909,060)	(1,454,940)				
次期繰越収支差額	—	7,394,027	—	前期繰越収支差額	—	6,804,189	—
支出合計	36,908,000	43,185,332	—	収入合計	36,908,000	43,185,332	—

(注) △印は収入減を示す。予算超過分は予備費から支出。

貸借対照表

昭和62年3月31日現在

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1 流動資産 20,173,329	20,173,329	1 流動負債 36,690	36,690
2 固定資産 127,654,650	127,654,650	2 固定負債 84,106,001	84,106,001
		3 正味財産 63,685,288	63,685,288
合計	147,827,979	合計	147,827,979

財産目録

昭和62年3月31日現在

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1 現金・預貯金 3,341,218	3,341,218	1 一般預り金 36,690	36,690
2 短期有価証券等 16,832,111	16,832,111	2 在学生会費預り金 82,525,500	82,525,500
固定資産		3 退職給与引当金 1,580,501	1,580,501
1 什器備品 1,266,783	1,266,783	正味財産 63,685,288	63,685,288
2 電話加入権 30,000	30,000		
3 基本財産引当預金 7,000,000	7,000,000		
4 長期預金 119,357,867	119,357,867		
合計	147,827,979	合計	147,827,979

昭和62年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2. 学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書等の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 校友会諸設備および校友会館の建設 将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し実行するよう努力する。 2. 懇話会等の開催、新年懇親会等の開催。 3. 支部の支援、支部組織の活性化を図る。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業紹介等を行なう。
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念事業に協力する。

昭和62年度収支予算書(案)

昭和62年4月1日から昭和63年3月31日まで

(単位：千円)

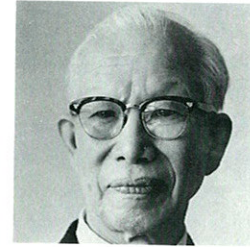
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 収入の部				旅費・交通費	200	200	0
基本財産収入	300	350	△ 50	通 信 費	5,632	4,276	1,356
会費収入(6単体)	32,539	27,758	4,781	振替手数料	80	50	30
賛助会費収入	3,000	2,800	200	事務用品費	715	1,462	△ 747
事業収入	100	100	0	消耗備品費	50	0	50
雑 収 入	3,050	5,900	△ 2,850	印刷製本費	980	0	980
賛助会費積立取崩収入	10,000	0	10,000	修 繕 費	100	0	100
収入の部合計	48,989	36,908	12,081	貸 借 費	150	150	0
II 支出の部				対 外 費	100	50	50
事業費	(17,483)	(7,469)	(10,014)	慶 弔 費	450	100	350
学園協力費	11,500	1,600	9,900	公 租 公 課	100	100	0
会報・出版費	1,850	1,400	450	雑 費	50	50	0
学生・生徒奨学金	500	483	17	人 件 費	(7,252)	(5,864)	(1,388)
支部対策費	1,540	1,726	△ 186	給与・手当	7,102	5,614	1,488
総会等大会費	350	600	△ 250	退職給与引当金繰入	100	200	△ 100
広報部費	163	320	△ 157	福利厚生費	50	50	0
組織部費	200	130	70	固定資産取得支出	(200)	(1,500)	(△1,300)
事業部費	210	210	0	積立預金支出	(12,000)	(12,000)	0
企画部費	170	200	△ 30	会館建設積立金	10,000	10,000	0
賛助会費積戻金	1,000	800	200	賛助会費積立金	2,000	2,000	0
運 営 費	(10,029)	(7,711)	(2,318)	予 備 費	(2,025)	(2,364)	(△ 339)
本部会議費	822	673	149				
役員交通費	600	600	0	支出の部合計	48,989	36,908	12,081

(注) △印は前年より減少を示す。

計 報

野口尚一先生を 偲んで

工学院大学卒業生代表 長坂舜二



先生の俄な訃報に接し、一瞬心のおきどころを失った空白を覚え、去来するご生前の一駒一駒が今日を昔日に重ねております。先生は当時の学生が大学昇格に向けて示した熱意、また、工手学校以来の卒業生の念願に応じて設立された新制大学の初代学長として大学の基礎造りの責務を立派に果たされました。

設立当時世相は敗戦後の混乱の中にあり、150名にみまない学生を抱える大学は財政的に窮乏の底にありました。教育研究体制を整えるためのご苦心は、うかがい知る以上のものであった事と存じます。このような中で卒業研究の折などに示されたお心づかい、また、黒板にフリーハンドでお描きになった、ダビンチを想わせる歯車の図に重なって、姿勢正しい長身の先生のゆっくりとした丁寧な講義は、今なお私共の想念の中にあります。

先生はそのご著書のはしがきに学問をする者の心構えとして、自然のしくみに謙虚に学ぶことを説いておられます。私共に与えていただいた最大なものは学問に忠実に生きてこられた、この謙虚なお姿であったと思われまふ。また、新しい大学の教育方針として高い理想と広い視野をそなえ、適正な物の見方のできることを主眼とされ、専門知識の吸収と人間形成を相等しく重要として一般教育の重みを強調されました。先生はいつも、優れた技術者になる前に立派な人間になることを説かれておられました。また、先生は信念の人であり、自由平等を信条とされる公平なご人格であられました。教職員学生何れにも、身分に隔てのない対話を好まれました。組織運営の基調は人の和にあるとしますのが先生の旨とするところであったと存じます。

工学院大学百年の歴史の中で、先生は正に学園中興の学長であられました。先生のお励ましを受けたかつての青年達は、社会の中核を担い活躍をしております。

創立百周年の日に先生のお姿に接する機会を失いました淋しさは比すべき何物もありませんが、先生の理念として秘した花は大きく開こうとしております。どうぞ安らかにおねむり下さい。卒業生一同の敬慕の念を込めてお別れのご挨拶とさせていただきます。

(大学葬時の弔辞の要約であります)

前島為司前校友会 会長を偲ぶ

常任理事 小高鎮夫(大建34年卒)



たくさんの菊の花に囲まれたご霊前の大きな写真は、いつもと変わらないにこやかな笑みをもって、私達会葬者を見つめてくれていた。生前の業績を称える様に、告別式が行われた新宿の太宗寺境内は、数えきれない程の花輪で埋めつくされ、政・財・教育各界、建設業、ライオンズクラブ、芸能界等、生前の巾広いご交際とご活躍に接し、善段は多くを語らない故人の偉大な側面を見る思いでした。

故人は、昭和35年本会理事に選ばれて以来、会長(50.4~61.3)、その間に学園理事長(54.7~56.3)を歴任し、更に旧校友会と学園同窓会の合併による新校友会発足(54.9)、校友会費値上推進による校友会財政基盤の確立は、故人の円満な人柄と同時に厳しい経営者としての手腕によるものと、私達は改めて故人の功績に対し感謝しております。

故人は大正12年に築地の工手学校に入学し、関東大震災の校舎焼失により、当時は東京府淀橋の日本中学校の仮校舎にて予科・本科・高等科の建築学科で勉学され、大正14年にご卒業になりました。

新宿校舎本館は、昭和3年4月の竣工なので、故人は震災後の6年間に学された諸先輩も含め、工学院大学学園の基礎造りに協力され、当時廃校論も出た程の学園復興の同窓生の血の滲む様な努力を目の当りに見て、現在の超高層学園建設へのスタートに感慨無量であったことと思います。6年前夫人を亡くされ、糖尿病を患われながら強じんな精神力をもって今日迄校友会の為、学園の為、ご尽力下さいましたが、喜寿を目前にし、又、7ヶ月先の学園創立100周年を見ず他界されましたことは惜しみて余りあります。

一代で築かれた前島建設は、同時に理事長であった四谷文化洋裁学院と共に四谷駅前にあり、亡きあともきつと、良き後継者により発展してゆくことでしょう。今も、富士吉田セミナーハウス建設用地に水筒に水を入れ、ウイスキー持参で、私達にもどうだとすすめてくれたこと、校友会の会議の後で、ほら「キンツバ」だよといって四谷の地元のお店から狐色に焼けた、おいしい土産を分けてくれた故人の暖かいまなざしを、今も想い出しながら生前を偲び深く哀悼の意を表します。

創立100周年記念 シンボルマークについて



本学創立100周年を記念して行われる諸行事を盛立てるために、実行委員会の中にシンボルマーク小委員会ができ、準備を進めて参りましたが、今回多数の応募作品の中から、図に示すようなシンボルマークの採用が決まりました。

応募総数は103点、応募者80名(本学園学生・父母及び本学に関係ある外部の方)で、優秀作1点と、佳作3点が選ばれました。優秀作は工業デザイナーの安本進氏。

このシンボルマークは、今後記念行事に係わる種々の印刷物などに広く使用される予定になっております。

(大柳)

八王子校舎全景

